



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

会報

THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST
Weekly Report

<http://www.tokachi.co.jp/wrotary/>



10

 2007, OCTOBER
第1735回例会

平成19年10月4日



2007年10月

職業奉仕月間・米山月間

| | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 会 長 | 茨木 雅敏 | 広報委員長 | 奥 敏則 |
| 副 会 長 | 近藤 誠勝 | 広報副委員長 | 小甲 哲士 |
| 副 会 長 | 千葉 清孝 | 委 員 | 渡部 省一 |
| 幹 事 | 三野宮 功 | 委 員 | 久保 且佳 |
| 会 計 | 大沢 剛 | 委 員 | 田中 利昭 |
| S A A | 本田美喜男 | 委 員 | 北川 勝啓 |



■会長報告

会長 茨木 雅敏



こんにちは。

明日より地区大会が開催されます。当クラブでは、42名の登録での参加となります。多くの会員の登録を頂きまして誠にありがとうございます。地区大会に合わせましての親睦のゴルフ及び西クラブのパークゴルフ大会にも、多数のご参加をいただきました。今回は地区主催のゴルフ大会に参加しますが、参加人数では12名と地区内では、最多登録となっております。又、パークゴルフの方でも12名以上の参加があると聞いております。役員から寄付をつのりまして、わずかですが商品を用意しておりますので、がんばっていただきたいと思ひます。また、5日の北見での懇親会には、30名以上の参加を頂いております。こちら大いに楽しみたいと思ひます。

クラブより地区大会参加の方にお願ひがあります。当クラブより柴田会員をガバナーノミニーに推薦しましたが、ほぼ間違いなくノミニーに推挙される状況にあります。当然、3年後には地区大会を取り仕切らなければなりません。その準備といたしまして地区大会参加会員には、地区大会全体についての感想をお願ひしたいと思います。何でも構いませんので、参考になる様な事柄を書面にて提出する様、お願ひいたします。来年の釧路、その後の旭川でも同様のことが必要であろうと思ひますので、会員皆様のご協力をお願ひいたします。

たいまつ宣言

この「たいまつ宣言」は創立30周年にあたり、西ロータリークラブの創立の心を知るところから発し、我々が未来へ向けての道標とするものである。たいまつのように我々の行く道を照らし、明るい未来へと導くものである。

- 1.我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を拡げる
- 1.我々は 他に依存することなく 自らを発する
- 1.我々は 常に変革をもって 行動する
- 1.我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を実践する
- 1.我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

■出席状況報告

| 月/日 | 9/2 | 9/6 | 9/13 | 9/20 | 9/27 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 例 会 | 1730回 | 1731回 | 1732回 | 1733回 | 1734回 |
| 総会員数 | 72名 | 73名 | 73名 | 73名 | 73名 |
| 計算に用いる 登録数 | 64名 | 65名 | 65名 | 65名 | 65名 |
| ホームクラブ出席 | 31名 | 51名 | 49名 | 52名 | 44名 |
| メールアップ登録 | 27名 | 10名 | 13名 | 11名 | 16名 |
| 欠 席 者 | 7名 | 4名 | 3名 | 2名 | 6名 |
| 出 席 率 | 89.23% | 93.84% | 95.38% | 96.92% | 92.30% |

■今月の主な行事

- 10月 4日 誕生・結婚祝
- 11日
- 18日
- 25日 夜間例会



点 鐘
開会宣言
ロータリーソング (四つのテスト)

たいまつ宣言唱和
10月結婚祝

- 井上 昭次会員 1950.10. 3
- 小室 陸雄会員 1954.10.11
- 河合 健一会員 1960.10.22
- 岡田 武稔会員 1965.10.17
- 鈴木 享会員 1971.10.24
- 近藤 誠勝会員 1974.10.20
- 中島 雄介会員 1976.10.12
- 林 文昭会員 1976.10.21
- 越智 孝佳会員 1979.10.15
- 中山 廣雄会員 1984.10.10

10月誕生祝

- 河西 哲夫会員 1932.10. 5
- 齊藤 允雄会員 1940.10.28
- 山田倫一郎会員 1941.10. 9
- 郷 清吉会員 1945.10.20
- 中島 雄介会員 1947.10.25
- 本田美喜男会員 1948.10. 9
- 佐々木嘉晃会員 1956.10. 5

バースデーソング

乾 杯
(会 食)

会長報告
会務報告

- ①帯広南RC、夜間例会開催のご案内
日 時 平成19年10月15日(月) 午後6時
場 所 北海道ホテル
- ②帯広RC、移動例会開催のご案内
日 時 平成19年10月14日(日) 午前11時
尚、10月17日(水)の繰上げ例会と致します。
- ③帯広南RC、10月8日(月)は祭日のため休会と
致します。
帯広東RC、10月9日(火)は休会と致します。
帯広RC、10月10日(水)は休会と致します。
- ④帯広南RC、移動例会開催のご案内
日 時 平成19年10月22日(月) 午後6時
場 所 十勝産業振興センター
- ⑤帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日 時 平成19年10月25日(木) 午後6時30分
場 所 北海道ホテル

ニコニコ献金

笹井祐三会員

三野宮功会員

中山廣雄会員

奥田頼昌会員

内海仁司会員

佐々木和彦会員

親睦活動委員会

省エネ提案のエスコ事業で最優秀となり、新聞に出ました。先日留学生のヴェロニカにモルドバの話とお国のケーキ作りをイングリッシュヴェレツジの生徒にしてもらいました。米山奨学会皆様のご協力誠に有難うございました。

前回の夜間例会ご協力有難うございました。会員増強よろしく願いいたします。

9月1日より医療法人啓和会理事となり、10月1日くろさわ木野クリニックがオープンし、院長となりました。転職もこれで最後ですので、今後ともよろしく願いいたします。

JC全国大会で担当しましたOB大懇親会が無事終了しました。

茨木雅敏会長
柳沢一元副SAA

安原明彦委員長



村田篤彦会員



茨木雅敏会長
三野宮功幹事



横田幸宏委員



プログラム

米山記念奨学委員会 中山廣雄委員長

ロータリアンには越えなくてはならない「山」がある。それが『米山』です。などとワケの判らぬ事を言いましたが、『米山』へ至る道を、先輩の豊田和尚に尋ねた訳です。すると和尚は、その「道」は、仏教では「七仏通戒偈」といって、「仏」の「教」の基本中の基本である。しかもその問いかけには、例会で既に答えた、と申します。しかし私は不明にも、未だその「教」の在る事すら、知らなかった訳です。そこで豊田会員に再度お願いをいたしまして、その道へ至る基本をお話頂く事となりました。



【会員卓話】

豊田洪道会員

「心は自ずから清浄なものになっていく…」《七仏通戒の偈》について
こんにちは。中山さんは、七仏通戒の偈というお経のこと

を私が話すと思っているかもしれませんが、違う主題でお話ししたいと思っています。禅宗は、中国が発祥なわけですが、唐の時代、道林和尚という一風変わった和尚がいました。この道林和尚は、座禅をするのにいつも高い木の上でしており、その姿が鳥の巣のように見えるものですから、人々から鳥の巣和尚というあだ名を付けられました。唐詩選に漢詩が載っている白樂天という方が、変わった和尚がいるというのを聞きつけて、一体どんな和尚か見てみようとして来てると、いつものように高い木の上で座禅をしております。鳥の巣和尚に「仏教とは一体どんなものか」と訊ねますと、「諸悪莫作 衆善奉行 自浄其意 是諸仏教」と七仏通戒の偈をもって答えました。すると白樂天は、「何だそんなことなら3歳の童子でも分かっている」とせせら笑ったのです。すると鳥の巣和尚は、「3歳の童子でも分かっている事を80歳の老翁でも実行できないではないか」と言ったのです。ここが大事だと思うのですが、学問であれば、こういうことなのだとして理解すれば良いのですが、宗教はなんぼ頭で理解できても、日常の日暮の中で、それを実行できなければ、それは理解出来ないことと同じことなんだということです。どうしたら日暮の中で実行できるようになるのか。「いのち」を考えてみたいのですが、そのひらがなの「いのち」を信じることです。お釈迦様は、「生まれることも死ぬことも汚すことも傷つけることも出来ない尊いもの」とお経に示されております。言葉を変えて言いますと、私たちは誰でも皆「いのち」の中に生まれ、「いのち」の中に生き、「いのち」の中で死んでいく。どこにも行けないのだという事を信じることです。現在生きている人で、「いのち」の無い人は一人もいません。目には見えなくても、紛れもなく現在自分を生かし続けてくれる力が働いています。これは誰も否定できない事実です。人間は、「いのち」の心と、「憎い」「可愛い」「惜しい」「欲しい」といった限りない欲望との間で葛藤を起し苦しみます。しかし、これは一面大変必要なことであって、散々葛藤し、苦しみをぬいた上、それが如何に愚かな事であるかに気づき、素直になることが出来るようになります。そうすると今まで気づかなかった有難い多くのことに気づかせてもらえます。自分は今も、今迄も、これからも、大いなる自然の懐に抱かれ、その恵みを受け、多くの人々の慈しみによって育ち、教えられ、人々の「いのち」の力で作り出されたたくさんのものに支えられ、さらに多くの「いのち」あるものを食べ、今ここにこうして生かして頂いているのだということがしみじみと分かってきます。分かってみれば、本当に「みんなのいのち」の真只中にいるのだと実感できます。「いのち」を信じ、「いのち」に目覚め、「いのち」に感謝し、「いのち」に背かぬ生活をしていく。つまり、生きている間は、出来るだけ善いことをして、悪いことを謹んで暮らし、死ぬときは、その「いのち」にたち返るのだと信じて生きていくことではなからうかと。



私は今から44~45年前ぐらい前になるでしょうか、大学を卒業し、西宮の海星寺の専門道場に入りました。最初、師匠から言われたことは、「お前さん、禅僧というものは陰徳を積むことでせよ」ということでした。陰徳を積むということは、人知れず善い行いを積んでいく、そしてもしそこで分かったならチョンなんだということなんです。私も青二才なので、師匠に言われたとおりにやっていると、限りない欲望とぶつかり合う。そういうことをずっと繰り返してきたわけですが、50位になったとき、本当にそうやることに喜びを感じられる自分を発見することが出来ました。私は出来が悪かったの、長いことかかりました。今でも限りない欲望というものはあるんです。死ぬまで消えないので、死ぬまでそういう修行を積まなければならない。「いのち」の中に生まれ、「いのち」の中で生き、「いのち」の中で死んでいく自分、みんなの「いのち」の中の真只中にいる自分だから、陰徳を積んでゆくことに喜びを感じられる。自分ひとりだけ幸せになることは出来ないのだということを、しみじみと感じている。以上で終わらせていただきます。

【後記】…たしかに過日、和尚は「七仏通戒偈」の教の在ることを示された。しかし和尚は「卓話」で、あえてその話を再び「説く」ことは一切無かった。それを取って説けば、それ即ち「知識」に墮す。「卓話」という《ライブ》を以って、和尚自らが示された語りの背景には、「禅」の問う、厳しさの一端が覗える。しかしそれは、われわれを取り巻く、世の中の現実。真の「現(うつつ)」の姿でもあるのだ。

米山担当 中山廣雄

閉会宣言
点 鐘

柳沢一元副SAA
茨木雅敏会長